午後１時零分再開

○議長（手嶋源五君）　休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、８番柴山恭子議員の質問を許可します。８番柴山恭子議員。

（８番柴山恭子君登壇）

○８番（柴山恭子君）　皆様、こんにちは。お昼からの１番でございます。

私は、先日の自民党本部で行われました政策研究会での研修会の折、山本一太参議院議員に、安倍内閣最大の使命はなりふり構わず経済に強い日本とすることであり、安全保障、社会福祉への道でもある、失敗すれば後がなく、二度と日本にチャンスはない、危機感を持って仲よく助け合わなければならないというお話がありましたし、発信力こそが説得力である。対外発信、英語での発信、日本人としての誇りを持ち、外へ打って出ると熱く強く訴えかけられました。日ごろの私の勉強不足、活動不足をとても反省させられた次第です。どうすれば今後の朝倉住民の安心・安全のため力を合わせられるのか、どう発信していけばよいのか、各課の皆さんとの勉強会を重ねながら、何をすべきか、何ができるのかを検討していきたいと考えます。

きょうは質問席より、安心・安全、地域づくりなど質問いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（８番柴山恭子君降壇）

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　じゃあ質問いたします。

災害において、今、つくられております自主防災組織は機能したのでありましょうか、お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君）　総務部長。

○総務部長（井上博之君）　平成23年度に最初の自主防災組織が結成されたというふうに思っております。今回の昨年の災害においては、まだ当時、数カ月しかたっておりませんでした。自主防災組織としては、まだまだ不十分であったというふうには思います。ですが、実際は、実際の災害現場活動においては区長さんたちが中心になって活動されていましたので、ある意味、自主防災的な組織として機能していた部分もあったのではないかというふうに考えております。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　自主防災組織としては不十分であったが、区会長さんあたりの日ごろの地域づくりのおかげで何とかなったということでありましょうか。

○議長（手嶋源五君）　総務部長。

○総務部長（井上博之君）　何とかなったというふうな安心感はございません。やっぱり四苦八苦して、私たちも右往左往しましたし、現場のほうも右往左往して、なかなか思うように伝達が行かないとか、そういうことはあったと思いますので、これでできたという

ふうには当然ながら思ってません。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　立石コミュニティでも自主防災組織をつくりました。でも、どう見てもこれは立石は広いということもありますので、機能しないのではなかろうかと考え、消防防災課の紹介により、熊本市の黒髪地区に視察に参りました。黒髪で最初に取り組まれたことは現状調査であったそうです。例えば防犯灯の設置状況、それから道路沿いに出た庭木の有無及び箇所、連絡網の作成、防犯灯のマップ、カーブミラーマップ、標高マップ、道路マップなどの現状調査を行われたそうでありますが、我が朝倉市としての現状調査の結果はどのようになっておりますでしょうか。

○議長（手嶋源五君）　総務部長。

○総務部長（井上博之君）　そういう意味で、この現状調査を把握できるのはまだ今からだというふうに思ってます。既に地域によって自分たちで取り組んでるとこもあると思いますけども、市全体としてはまだまだだというふうに思ってます。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　それでは市として今後、現状調査などをしていきたいというお考えはありますでしょうか。

○議長（手嶋源五君）　総務部長。

○総務部長（井上博之君）　例えばマップづくりにしても、よく現場を知ってるのはやっぱり地元の方です。そういう意味で、コミュニティと一緒になって防災マップとか避難所のところとか、そういうのでやってますので、やっぱり一番現状、地元を知ってるのは地元の方だと思いますので、一緒に取り組んでいく必要があるというふうに思ってます。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　なぜ現状調査の必要性を問うたかといいますと、黒髪町では現状調査が行われた後に火災予防と対策、意識づけのために、各家庭に消火バケツの配付を行ったそうです。見てきましたが、昔の真っ赤に塗られて防火と書いてある、あの小さな赤いバケツでした。こんなものが役に立つかなとは思いましたが、黒髪の皆さんに言うと、非常に意識的にはこのバケツは役に立つということでした。

その次に交通事故、交通災害防止対策として多発交差点に青色塗装を塗られたそうです。こういうことは非常に見習うべきことかなと、そのとき思って聞きました。

それから自然災害による家屋や樹木の倒壊対策としてチェーンソーの準備がしてありました。これはその地区でチェーンソーを持ってありました。

もう１つ、高齢世帯、ひとり暮らしの方々の見守り活動にＡＥＤの配置と、それから老人会、グラウンドゴルフの活用を考えてありました。

そのとき最も言われたことは、できるだけ小さい団体で動いてくださいということでした。大きい団体だとどうしても動きが鈍くなり、さっというときに間に合わないというこ

とがそのときお聞きしたことでしたし、私は行きませんでしたが、区会長会が視察した長崎大水害から学んだ教訓というのは、迅速な避難ということでありました。それから長崎市においては避難所の開設を95から268にしたそうです。それから市職員２人の配置、台風のときは事前に開設、いつでも避難できるように事前に開設されるようです。

こういうことを聞かれまして、どういうふうに思われましたでしょうか。

○議長（手嶋源五君）　総務部長。

○総務部長（井上博之君）　確かに先進地だと思いますし、見習うべきことはたくさんあるというふうに感じました。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　我が朝倉市としては、どのところからならできるとお考えでしょうか。

○議長（手嶋源五君）　総務部長。

○総務部長（井上博之君）　どこからというよりも、できるところから取り組んでいく必要があるというふうに思いました。それぞれ地域によって特性違いますので、地域に応じたやっぱり取り組みが一番大事だというふうに思います。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　それぞれ各地域、いろんな事情があって、いろいろ違うとは思いますが、やはり中島議員の一般質問ではありませんが、具体的にいつごろからこういうことをというのをやっぱりきっちりと計画をされたほうがいいのではないかと思います。

消防防災課にお尋ねします。５月20日に行われた第１回立石自主防災会議に参加されて、どのような御意見をお持ちでしょうか。

○議長（手嶋源五君）　消防防災課長。

○消防防災課長（半田佳哉君）　この間、立石コミュニティのほうに参りましたときに、大きい組織では動かないということを痛切しております。どうしても地域の人が、例えば援護する人がおられた場合、そういった場合にはどうしても日ごろから地域の人でないとわからないところもありますし、日ごろより地域の人が見守っていくと、そういったことが必要ではないかとこの前は感じております。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　この会議を経て、立石コミュニティでは、やはり防災対策というのは向こう三軒両隣ぐらいの単位ですべきであろう、そのあたりを充実するべきであろうということになりましたし、昼間の災害時はどうしても若い皆さんは働きに行っておりますので、高齢の人しかいないと考えられます。そこで、元気な高齢の人に防災委員として動いていただくよう防災委員の新設をしてはどうかという話が出ました。これにより隣組長と防災委員２人が協力し合いながら災害時には何とかしていくという結果に達しましたが、私はあの折の消防防災課、介護サービス課が参加していただきましたが、もう少しプ

ロとして何かコミュニティにアドバイスをする必要があったのではないかなと思っておりました。

それから、何か熱い思い、さっきの参議院議員の話じゃないけれど、消防防災課の防災に対する熱い思いを、もう少し立石コミュニティの皆さんにアピールする必要があったのではないかと考えております。この防災会議に参加されて、受け身の形で話を聞いて持ち帰ることも大事でしょうが、もっとプロとしての何かを立石コミュニティに対して発信できなかったのでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君）　消防防災課長。

○消防防災課長（半田佳哉君）　議員がおっしゃられましたように、私たちもそのときちょっと受け身の態勢であったかと思っております。具体的に何をどうするべきか等、今後、私たちを含めて地元の皆さんと一緒に話し合いながら進めていきたいと思っております。例えば体育祭とかをする際に、リレーとかはありますけれども、バケツリレーとか、それとか担架競争とか、そういったのを取り入れてやっていく方法も１つの方法ではないかなと思っております。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　そうですよ、そんくらいのことは言うてよかったろと私も思う。結局、立石は体育祭がありますので、そういう話で落ちついております。防災に関することを体育祭の中で入れていかなければならないんじゃなかろうか、せめて体育祭のときは赤く塗った防災の空バケツで走ってみようかとか、毛布と棒２本で担架をつくってしようかとか、いろいろなことを話し合いました。でも、私が何が不満かちゅうたら、そこのとこやん。熱さ、もう熱さが足らん。何とかして自分たちはもう朝倉市の防災を担っちょるち、そん自分たちばこげんしたいち思うけん、こげなふうに協力してもらえんじゃろうかというような熱い思いをね、その各地域に行って発信して、発信は、さっき言うたろうが、発信力は説得力、いかに相手を説得する力を持つということが消防防災課の役目だと思いますが、どう思われますか。

○議長（手嶋源五君）　総務部長。

○総務部長（井上博之君）　おっしゃるとおりであります。私は現場に行ってないのでちょっと状況わかりませんが、確かに何の会議してもそうですが、やっぱり住民に対する理解というのは、やっぱりそういう職員の説明の、職員なら職員の説明の思いを伝えるというとこがやっぱり、議員言いましたように熱い思いというのは確かに大事だというふうに思ってます。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　もうちょっと言うてほしかった、私がこげんしゃべりよるっちゃけん、この熱い思いはあるとですよち、私たちにあるばってん、あのときいろいろ言うたら、住民から、おまえたちは何ちゅうよるかち、そしたらこげなときはどげんしたとかち、

ぎゃんぎゃん言われるとが嫌やけん、言わんばってん、熱い思いはあるち、もう１回、言うて、部長。

○議長（手嶋源五君）　総務部長。

○総務部長（井上博之君）　圧倒されますけども、確かにやっぱり何の会議でも、何の説明でもそうですけども、やっぱり思いを伝えるというのは大事だと思いますので、そこでやっぱり言葉足らずとか、引っ込み思案でというのは一番よくないことなんで、やっぱり住民にこれをしてほしい、これをしたいんだというところをやっぱり伝えるというところはやっぱり大事だと思います。そのためにはやっぱりきちんと説明責任がございますので、やっぱり気持ちを込めて説明するということが大事だというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　そうですよ、そう。何ちゅうたらええつかな、おとなしくそこで控え目にしとけば、事がおさまるち思ったら大間違い。大体、相手から反発を食らうぐらい、ぎゃんぎゃんぎゃんぎゃん言われるぐらいしゃべっていい。あのときは私も言いましたよ、何ちゅうたかというたら、あんたたちはそれによるばってん、あんたたちが動かなどうなるとなち、そうでしょうが、そやけん、そげなことを言うてほしいっちゃ、地域が頑張ってほしいち、とにかく自分たちも頑張るけん、地域で頑張ってほしいとですよち。以後、地域に行って会合に出られたらそういうふうに話してほしいと思います。

それで、なら組織づくりは今後どういう方向で進めようと思ってらっしゃるかをお尋ねします。

○議長（手嶋源五君）　総務部長。

○総務部長（井上博之君）　何度も同じことを繰り返すようですけども、特に緊急時、災害時はやっぱり行政だけではどうしようもできません。地元と一緒に取り組んでいく必要があると思います。また災害が起こった後も、やっぱり地元と一緒にということが大事です。ですので、今回の災害を顧みまして、この１カ月の間、かなり全協のほうでも御説明しましたけども、やっぱりマニュアルを見直すとか、いろんなことの反省を踏まえながら、次の課題解決に向かって、次のものに向かって取り組んでいくということが必要だというふうに思ってます。組織化についても、例えば要援護者の避難とか、地域の被害状況の把握とか、それのものについて地元と一緒、例えば自主防災組織ができれば、自主防災組織の中で中心で取り組んでいただくとか、隣近所、やっぱり一番よく知ってるとこですから、両隣、三軒、何ですかね、（発言する者あり）そういうところが一番大事だというふうに私は思ってますので、その辺と行政とが一体になって取り組む必要があるというふうには思ってますので。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　何かぴんとこんとばってん、とにかくは地域と一緒になって組織づくりを進めたいということですかね。じゃあよろしくお願いいたします。

ほんなら地域と一緒になって進める上では研修をすべきだと思います。地域も一緒になった防災研修、そういう計画がございますでしょうか。

○議長（手嶋源五君）　総務部長。

○総務部長（井上博之君）　全体的な話を私のほうからいたします。今年度も自主防災組織に関しての研修会を予定させてまして、計画してまして、またさらに充実させていく必要があるというふうに思っております。研修目的なんですけども、例えば日ごろの見守り活動とか、いわば平常時からの取り組みとか、災害要援護者の支援とか、こういうものを自主防災組織の中で取り組めたらいいなというふうに思ってます。これに関して具体的な内容については、保健福祉部のほうで具体的な研修内容については答弁いたしたいというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君）　保健福祉部長。

○保健福祉部長（江藤剛一君）　防災組織の研修計画ですが、今年度、自主防災組織を対象とした研修を通しまして、災害時の要援護者の個別計画を作成し、ひいてはそれが日常の見守り体制構築にもつながっていくというような研修を計画しておりまして、現在、研修を大きく３段階で考えております。まずは第１段階といたしまして、17ある自主防災組織の役員を対象に、今回、こういった研修を行いますという内容の研修を行いたいと考えてます。２段階目といたしまして、その17の自主防災組織の中から４つのコミュニティを選定し、その４つのコミュニティの役員等を対象に研修を行いたいと考えてます。その４つ選んだコミュニティの中から、さらに最終的にはおのおののコミュニティの中から１つの行政区を選定いたしまして、その最終的に４つの行政区になりますが、その区の方たちに対し一緒に研修を重ね、個別計画等を作成していきたいと考えてます。

以上です。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　どんな研修なんですかね、具体的に。

○議長（手嶋源五君）　介護サービス課長。

○介護サービス課長（宮地ミドリ君）　具体的に今、この事業、消防防災課と共同で実施するようにいたしております。ただ、研修の内容について具体的に内容を詰めてるところでございますが、今の考えとしては講師からの一方的な話でなくて、参加者の方がみずから議論するワークショップのほう、体験型講座のほうを考えてるとこでございます。具体的に言いますと、災害発生時にもしものときに自分がどのような行動をとるのか、そういうことと、あと地域の防災地図を用いて避難経路の確認、避難経路に危険な箇所がないか、あるいは災害によっては避難経路を変更しなければならないとかいうことがありますので、それの確認。それと災害時に避難等の支援が必要な人が地域のどこにいるのか、その要援護者を安全にまた避難所まで連れて行くという支援者が誰になるのか、そこを地図に落としていきまして、要援護者、その支援者の情報を共有をしていきます。それと災害時の連

絡体制なり情報伝達をどうするのか、そういうところを具体的に地域の住民の方と一緒に考えていただくという研修を今のところは考えております。詳細決まりましたら自主防災組織のほうに説明をして進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　見守り支援とは別、一緒にしなくちゃいけないことですが、私はもっと単純に避難の仕方とか、見守り支援は、次、聞く予定でしたが、とにかく避難しましょうち、黒髪町で前、話したと思いますが、どうするかちゅうたときに、風呂から上がったらまずパンツを履きなさいちゅうことが一言言われました。逃げるときにパンツを履かな逃げおくれると、何よりもさきに裸でうろうろせんでパンツを履きなさいちゅうのが黒髪町での研修の第一でした。どんな研修をするかちゅうのは、最初にもっと具体的なこと、各コミュニティの防災組織に対してそういうふうな具体的な研修であるべきだと思いますが、市が考えてあるのは大き過ぎるんですよ、考え方が。もっと例えば立石なら立石に向けて研修を行います。各地区、隣組長さん初め何人の方が出席して、こういう防災に対する研修をしますとか、そういうことだったのかと思ったんですよ、研修というのが。だから訓練かな、言うてみれば訓練ですよね、そういうものはありませんかとお尋ねしたかったんですが、ありますでしょうか。

○議長（手嶋源五君）　介護サービス課長。

○介護サービス課長（宮地ミドリ君）　先ほどの説明、大変何か回りくどい説明をしてわかりにくかったと思うんですが、要は議員おっしゃるように、災害時に例えば宮地を誰が助けるかという、それを、その体制をつくっていただきたい、それが目的なんです。そのためには日ごろからの日常からつき合いがないと、いざというときに助け合いができない。究極はそれです。

以上です。

○議長（手嶋源五君）　（発言する者あり）消防防災のほうはないと。

消防防災課長。

○消防防災課長（半田佳哉君）　先ほどから申しましてますように、実際、要援護者がいた場合、誰が助けるかと、そういったふうになった場合、いつも地域で一緒に活動していたり、地域のいろんな行事に参加したりして、いろんな顔見知りになって、そういった輪をつくることによって要援護者の人を助けたりとか、そういったのをしようと。それで、実際どういったふうにするかと申しますと、誰がこの人を助けるとか、そういった連絡体制、この人を助ける場合は誰と誰が責任を持って助けるとか、そういった連絡体制づくりが一番重要ではないかと思ってます。それで、もちろん訓練をする必要があると思います。まずは地域で溶け込んでいただいて、みんなで助けていくと、そういった姿勢が大事だと思っております。

以上です。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　ならお尋ねしますが、17コミュニティの役員さんに対して研修をすると最初に言われました。それで、その思ってある研修になりますでしょうか。

○議長（手嶋源五君）　総務部長。

○総務部長（井上博之君）　基本的なことがやっぱり抜けてると思います。要は昨年の災害でも雨が降ってるのにやっぱり避難しないという、もう大丈夫くさというふうな感じの方がやっぱり多かったと思います、そこの意識づけからやっぱり始めないといけないというふうに思いますので、基本的なことのちょっと今、答弁が抜けてると思いますので。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　そうするためにそういう研修で大丈夫なのですかと聞いておりますが。

○議長（手嶋源五君）　総務部長。

○総務部長（井上博之君）　今の見守りとか平常時の要援護者の支援とか、災害時援護者の支援とか、特化した内容を説明しましたので、基本的なものは基本的なものとして伝えていく必要があるというふうに思ってます。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　何かそのあたりが私にぐんぐんと伝わってこんとこなんですよ。ああ、やるなち、朝倉市は防災に対してこういう研修をしながら、これで何とかなるばいち、最初はできんやろうばってん、１つずつ積み重ねながら、防災に対しては非常に強いまちづくりができるばいち、私が思わんとはなしでしょうか。何が答弁が、何の答弁が悪くて私に通じないのですか、私に発信してください、早く。

○議長（手嶋源五君）　総務部長。

○総務部長（井上博之君）　まず災害でも防災のところの考え方ですが、災害においてもいろんな災害があると思いますが、まず自分の身を守ることが大切です。そのためにはやっぱり日ごろから、私も含めてですよ、災害が起きたときはどういうふうな経路で逃げるとか、どういうふうに準備するとかって、そういうふだんからのやっぱり意識づけが大事だと思いますので、そこをやっぱり最初に伝えるべきだと私は思ってます。その部分をちょっと説明抜けてるようですので、コミュニティのほうにも入っていって、基本的なとこからやっぱり話していく必要があるのかなというふうに思ってます。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　では、総務部長に基本的なことをお伺いいたします。総務部長の家庭では、いざ災害というときにどんな準備をされておりますでしょうか。

○議長（手嶋源五君）　総務部長。

○総務部長（井上博之君）　実は答弁をいたしますけど、私自身、日ごろから本当に災害

に対しては無頓着です。昨年、ああいう災害が起こったのを目の当たりにしましたのも今まで経験なかったことですし、当時、私の記憶の中では、28災というのが私の地元では起こりました、28災害の水害です、それ私は生まれてませんので、そういう現実が私にありませんでした。去年、ああいう災害が起きて現場に行ったときに、改めてそういうものが大切というのがよくわかりました。皆さん方もそうだと思いますけども、日ごろやっぱり災害がずっと起きてないと、やっぱりそういう危機意識が失われてしまうので、その辺からふだんから取り組む必要があると思います。私自身、家にはそういう例えば避難経路とかマップとか常備してるわけじゃないし、災害時の避難場所、家族のほうにここに逃げるんですよと、避難所はここですよというようなところは、今まで残念ながらしたことはございません。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　28年は私は生まれておりましたが知りません。でも、その後にもいろんなことがありましたよ、覚えてありません、オイルショックでティッシュがなくなったこと、お米が足りなくてお米を買いに走ったこと、いろいろな社会的なことが起こりました。それを教訓とされたことはありませんか。

○議長（手嶋源五君）　総務部長。

○総務部長（井上博之君）　残念ながらそういう記憶はございますけども、それを教訓として私の人生の中で取り組んだことは残念ながらありません。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　私、あります。それは、じゃあまず私のティッシュペーパーは７ケース準備しております。７ケース目がなくなると、その次、１ケース買ってきます。それから、牛乳は２パック、２パックは通常に準備しておき、なくなったら買ってきます。水は３リットル入りが３つ、１つずつ使いながら、１つが減ったときに次のを買ってきます。おしめは６つ、６つ目がなくなったとき、買ってきて順番に奥にやります。ガソリンは半分に達したときに満タンにします。いざ災害の折にガソリンがないと動きがとれないことは、あの20年前の台風の折、つくづく自分で感じたからです。

　これはほんの一例ですが、これは市にとってもそういうことは言えると思うとですよね。何かを備蓄しなければならないとき、それは通常使っているものです。それを災害だからといって水を備蓄しとくとか、何かを備蓄しとくじゃなくて、常に使える状態にして、それを少しずつ備蓄して、私たちは風呂の水も流しません、トイレの水が大変だったからです。だからそういうふうにして、日々の生活の中で災害とかいろんな事情に備えようと思っていますが、これは市にとってもそうであると思います。何かを水をためるとか、何かをするちゅうとば非常に大変なことです。でも、どうやって知恵を動かせば、これが余りお金もかからずにやっていけるのは考えなくちゃいけないことだと思いますがどうでしょうか。

○議長（手嶋源五君）　総務部長。

○総務部長（井上博之君）　おっしゃるとおり考えなきゃいけないと思います。実際、備蓄というのは大事なものですが、やっぱり永久的に保存できるものがございません、ですからその入れかえとか、維持するための考え方も必要だというふうに思ってます。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　そこでお尋ねしますが、避難場所でのライフラインの確保はどういうふうにしようと考えてありますでしょうか。

○議長（手嶋源五君）　消防防災課長。

○消防防災課長（半田佳哉君）　避難所のライフラインの確保の件ですけれども、現在、市の指定避難所の数は28カ所ございます。今回、ライフラインの確保ということで、電気と水道について御説明をいたします。

まず電気の件なんですけれども、自家発電がある施設が４カ所、蓄電池による非常灯がある施設が12カ所、屋内消火栓のみが自家発電である施設が２カ所、何もない施設が10カ所であります。

次に水道なんですけれども、通常どおり使用可能な施設が11カ所、高架水槽を使って使用できる施設が12カ所、使用できない施設が５カ所でございます。

以上のように全ての施設があらゆるケースに対応するというわけではございません。今後は改善可能な施設については、関係課と協議を行って計画的に施設の充実を図っていきたいと考えております。施設整備には時間もかかりますから、当面は備蓄やリース等、災害時の協定等を締結して対応していきたいと考えております。

以上です。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　水と電気のことについてお聞きしましたが、ガスはどうでしょうか。

○議長（手嶋源五君）　消防防災課長。

○消防防災課長（半田佳哉君）　ガスについては、今のところちょっと把握できてません。

以上です。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　何とかなるちゅうことですかね。

○議長（手嶋源五君）　消防防災課長。

○消防防災課長（半田佳哉君）　ガスにつきましては、突発的なことでありましたら、卓上とか、小規模なものやったらそういったものがあると思いますけれども、大規模なガスの供給についてはちょっと把握しておりません。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　私も家庭用のカチッとするあのガスなら何本入りかを準備してお

りますが、市ではそういうことではだめだろうと思われますので、多分、消防防災課としては、私の言わんとすることは何となく、ああ、あれのことを言いよるとかなち、頭の中ではあると思いますので、そういうことも含めて、やっぱりライフラインの確保をお願いしたいと思いますが。

○議長（手嶋源五君）　消防防災課長。

○消防防災課長（半田佳哉君）　今、さっき言われてますように、ガスの供給するタンクが一応あるのはありますけれども、そういったのを今後考えていくかどうかは、今から今後、検討していきたいと思っております。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　その点につきましてもよろしくお願いいたします。非常に便利なものかとも思われます、それから発電もできますし、私たちも何とかしてコミュニティとして災害に強いまちづくりに力を入れたいと思っておりますので、消防防災課も力を入れてください、そして住民が納得するような活動をしていただきたいと思います。

先ほど見守り支援ネットワークの構築についてはちらっと話されましたが、市長が、ねえ、市長、朝倉市身体障害者福祉協会総会において、市長は何ちゅうたかというたら、書いちょきました、安全で安心して暮らせる地域づくりのため、災害に遭いやすい高齢者、障害者見守り支援ネットワークの構築をし、安心して住める地域づくりをやりたいと力強い挨拶をされました。それに答えてください、介護サービス課。

○議長（手嶋源五君）　介護サービス課長。

○介護サービス課長（宮地ミドリ君）　見守り支援ネットワークは、平成23年度から協議会発足して進めております事業でございます。安心・安全のために必要な事業と考えております。見守り支援というのが御承知のとおり、それぞれの地域で民生委員さんの見守り活動なり、老人クラブの愛の一声運動、あとは、ほのぼの会食会等もあってあります。いろんな取り組みがそれぞれの地域でなされておりますが、それがそれぞれの点になってる部分を線で結びたいというのもこの事業の目的の１つでもありますし、あと市のほうで見守りネットワークを構築するために、23年度に要援護者台帳の整備、その情報のシステム化、それと、ことしの３月末から緊急情報キットといいまして、高齢者の方、また障害者の方のこういうのを広報紙でも載せましたので御承知かとは思いますが、これを65歳以上の高齢者、あるいは障害をお持ちの方等にお配りして、災害時、あるいは緊急な病気のとき、事故のときにこれを使っていただくというのも配付を始めております。それとあと先ほどから出ております自主防災組織への研修も地域の日常の見守りの支援体制の整備の１つとして考えてますし、あと市内事業所のほうに日常業務の中で、例えば高齢者のお宅で新聞が何日もたまってるとか、郵便物が何日もたまってるとか、あと同じ洗濯物がずっとたまってるとか、そういう異変に気づいたときに市のほうに連絡する見守り活動も進めております。今、市内の14の新聞販売店のほうと協定を結ばさせていただきまして、その

通報体制をつくっております。それと、あと水道の検針業務を委託しておりますので、そちらにも協力依頼をしております。あと郵便局、それと電力会社にも、今、相談をしてるところでございます。

そういういろんな見守りをして、１人の要援護者の方にいろんなネット、網をかけて、できるだけどれかにはひっかかるというか、済みません、言い方悪いんですが、異状に気づくという見守りを進めていくことで支援していくというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　ぐっと感じました。ああ、そういうことをせないかんとばいち、そういうことで見守りネットワークちゅうことができ上がるとばいと、何か大きく図に描いた中で、何かがあって、はい、ここが民生委員がしますよ、はい、何がしますよじゃなくて、小さなことの積み重ねがいつかは大きな支援となると思いますので、今後ともよろしくお願いします。私どもも時々行きながら、どんなことが行われていたかお尋ねに行きますのでよろしくお願いいたします。

それでは次に、子供の見守りについてお尋ねいたします。

自民党本部に研修に行きましたとお話ししましたが、研修の最後は、子どもの虹情報研修センターというところの視察でした。これは日本虐待・思春期問題情報研修センターといいます。この小林センター長は、これから未来を託すかけがえのない子供たちが安心して生きていける社会を実現するため、子供と家庭にかかわる全ての方々の力強い支援をお願いしますと強く訴えかけられました。

子ども未来課にお尋ねいたします。これはその虹から与えられた課題であります、よろしいでしょうか、たくさんありますので、どんどん書いてください。

１つ、支援体制はどのようにされていますか、丁寧な対応が可能となるよう職員の体制は充実されておりますでしょうか。

２、支援に必要なケースのアセスメント力、ケースを理解し対処する力、正確な判断をできるような専門性の向上に取り組まれていますか。家庭支援と家族間調整、家族全体をどう支援するか良好でない家族への対処はどうするか、保護者との対立、親子関係修復の技法、家族間関係の技法、根幹となるのは家庭訪問に始まり家庭訪問で終わると言いますので、家庭訪問はされているでしょうか。それから親の指導は上から目線で行ってはいられないでしょうか。親との共同、親とともに過ごすことが大事だと思われます。

まず半分、どうぞ。

○議長（手嶋源五君）　保健福祉部長。

○保健福祉部長（江藤剛一君）　虐待に対する、まず支援体制ということです。子供の見守りというか、虐待に関しましては、子ども未来課のほうに相談員３名置いております。その相談員３名置いておりますが、その中で虐待通告があった場合、あるいはそういった

相談があった場合、健康課、あるいは教育課と定期的にケース会議を行っておるところでございます。昨年より中学校単位に小中学校のほうとも情報交換を行っているところでございます。専門性というところですが、そういった虐待に対する相談というのは、今、子ども未来課にいる３名の相談員さんで行っているところでございます。家庭訪問ということですが、事業といたしまして、もちろん虐待通告なり、そういったもの、通報があった場合、相談員のほうが何らかのいろんな角度から、例えば保育園に行ってある子だったら保育園に連絡してみて、そういった様子を聞いてみたり、あるいは、まずは安全確認をする、48時間以内というふうに福岡県内なってますが、48時間以内に安全確認を行っているところではあります。その保育、子ども未来課管轄でいきますと、保育所なんかでもそうですが、子供の様子を保育士によく観察してもらうとか、あるいは保護者への対応として、保育士のほうが子供のいろんな行動面の問題等、そういったとこを保護者に虐待という言葉は使わずに援助するということで保護者に接してみたり、あるいは、まずはやはり予防ということなんですが、常日ごろから保育士が保護者に対して子育てに関する相談に乗って保護者の理解を得るというか、そういったところでいろんな角度から対応しているところでございます。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　あとは何かな、みんな一緒に勉強会なんかをやっていますかとかいうことでした、合同の、まずは児童相談所の職員、市のそういう人たちと一緒に合同の研修会なんかはぜひ必要ですよと。それとか、福祉、医療、保健、さっき言われましたね、そういうふうな多機能にわたっての合同の研修会がぜひ必要ということも言われていましたので、今、やれてるように一生懸命、虐待だけじゃなくて、子供の見守りに関して頑張っていただきたいと思います。

それで、私は一番最後に、余り問題が大き過ぎて、私が今、何をしてよかかわからんち所長に言うたとですよ。大体、私は帰ったら何から始めたらよかとですかち、そしたら、何とも当たり前のことでした、地域づくりでしょうち。でも、ちょっと考えられました、ううんち。私たちできることは何でしょうかち言ったら、地域づくりですよち言いなったけん、それは災害と一緒ですねち、何事の中心には常に地域づくりをどうするかが問題なんだなちゅうことで帰ってきたんですが、それを立石に持ち帰りました、こういうことを言われましたと持ち帰って、立石はどげんかねちゅうて話し合いました。立石にも子育て広場がありますが、親の個性がぶつかり合うことがあったり、やっぱりなかなか指導者とぶつかり合うことがあって、いろいろな大変な面もあると、できれば地域の中心に木陰やベンチがある広場づくりをしていただけないだろうかということでしたので、この地域の広場づくりについて提案しております。保育所や公民館の近くにあればトイレも借りることができますし、親が何かに悩んだとき、相談に行けるとも思いますので、所長のお話もですが、虐待があったり、非行があったり、何かあるのを強制するのは非常にコスト面に

高くつくそうです。できればそういう事態が起こらないよう、小さい時点で何とかして防いで防止してほしいちゅうのが小林所長の思いでした。ということは地域力を上げ、地域のところに広場があり、気の合ったお母さんたち同士がベンチに座って話し、子供は遊び、ときたま、そこにじいちゃん、ばあちゃんが散歩帰りに座って休憩する、そんなような広場が欲しいと思いますが、市長、どんなふうでしょうか。これはもう誰に言いようもない。

○議長（手嶋源五君）　市長。

○市長（森田俊介君）　子供を育てる上で、特に私どもの町、子供が小さいときも、恐らくうちの家内あたりはいろいろと悩んだりしたこともあったんだろうと思います。恐らく今の子供を育ててる若い親御さんたち、やっぱりいろんな悩みを持って、それでたまたま昨年でしたかね、何かテレビのニュースで、要するに育児ノイローゼで我が子を殺すというような事件がたしかあったと思います。そのときに、私の家内と２人でテレビを見ておりましたら、その気持ち、私もわかるっちゃんねと、昔はそげな気持ちになったことも子供が小さいときあるもんねということを横で言うんです、私はびっくりしました、そういうことはほとんど私は知らないままに今日まで来てたなと思ってます。ですから特に立石あたりは核家族化で、いわゆるおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に住んでる方もいらっしゃるんでしょうけども、そうじゃない家庭が多いのかなと。そういった人たちがお互いのいわゆる同じ状況の人たちが同じ悩みを話し合えるような場所としての公園ということだろうと思います。それは公園であるなしは別に、そういった場所というのは必要であろうかというふうに思います。例えば立石の公民館の近くを見ますと、保育所の向こう側に小学校の跡地にえらい木が茂った立派な場所があります、ああいうところにベンチなんかを置いて、今、あいてるそうですから、ああいうとこを活用すればいいのができるのかなと思ったりもします。いずれにしましても、そういった場所というものはやっぱり市が、行政がどうしてつくるとか、つくらんとかいう話、やっぱり必要なんだろうという気はしてます。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　立石としても一生懸命、努力してますので、どうぞこの子供向けの広場についてはよろしくお願いいたします。

最後に、甘木公園の今後の計画とどのような公園づくりを目指すのかをお尋ねいたします。

もうすごく公園はきれいになりました、えらい感謝しております。この前、市民祭に来られた人も、どうした立派な公園になったな、金がかかるやろうなち言われたけん、はあ、そうかもしれませんなち言いましたが、とにかくすてきな公園になっておりますが、今後、あの公園をどこまで持っていくのか、どういう公園にしたいのかをお尋ねいたします。あと４分しかありません。

○議長（手嶋源五君）　都市建設部長。

○都市建設部長（上野篤也君）　ありがとうございます。甘木公園は市民の休養、それから散策、イベント、スポーツの場として、それを重要視しているところでございます。その機能を高めるように整備、充実を図り、また豊かな季節感の演出を通しまして、市民の身近な憩いの場としての機能を高めていきたいと考えてるところでございます。

具体的な公園の整備でございますが、平成24年度に策定いたしました公園施設長寿命化計画によりまして公園整備を進めているところでございます。内容といたしましては、公園内の施設の改築が主なものでございまして、平成25年度におきましては、遊園地広場、遊具の設置、それから園路のカラーの舗装、それからベンチの取りかえ、それからあずまやの設置、芝生広場東側暗渠の排水工事を予定しておるところでございます。また26年度におきましても芝生広場、今度は西側になりますけど、そちらのほうの暗渠排水工事を計画しているところでございます。あと親水デッキの改修等も計画をしているところでございます。また池の周りの園路につきましても、ゴムのチップ舗装、そういうところも計画をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員。

○８番（柴山恭子君）　ありがとうございます。実はあそこに散歩行く人は非常に多くなりました、非常に喜んであります。でも、もう一歩、発信力が足らん。甘木には甘木公園ちゅう立派な公園があって、ちょいと行ってみらんなちゅう発信力、そのためには何をすりゃいいかちゅうのを、もう１度、話し合いましょう。

きょうはありがとうございました。これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。

○議長（手嶋源五君）　８番柴山恭子議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午後１時58分休憩